

参考文献

△単行本▽

韓国語

- 江原道『火田整理史』、1976  
高晶玉『朝鮮民謡研究』首善社、1949  
金水山編『原本鄭鑑録』明文堂、1972  
金允植『韓日文学の関連様相』一志社、1974  
金允植『韓国近代作家論巧』一志社、1974  
金允植『韓国近代文学思想史』ハンギル社、1984  
金允植『韓国近代文芸批評史研究』一志社、1976  
ソウル特別市『ソウル六百年史』第4巻、ソウル特別市、1981  
李家源訳『熱河日記(上)』大洋書籍、1975  
李基奉『北の文学と芸術人』思社研、1986  
李石薫『黄昏の歌』朝鮮出版社、1947  
李虎根・尹烈秀『朝鮮の虎』The Korean Tiger 悦和堂、1986  
林鐘国『親日文学論』平和出版社、1966  
林鐘国『親日論説選集』実践文学社、1987  
白川豊『張赫宙研究』東国大学校大学院博士学位論文、1989  
布袋敏博『日帝末期日本語小説研究』ソウル大学校大学院碩士学位論文、1995

日本語

- 姜在彦『日本による朝鮮支配の40年』朝日文庫、1992  
金聖珉『緑旗連盟』羽田書店、1940  
金石範『転向と親日派』岩波書店、1993  
金英達『創氏改名の研究』朝鮮近代史研究双書15、未来社、1997  
金元録『元山要覧』元山要覧編輯会、1937  
朴春日『増補近代日本文学における朝鮮像』未来社、1985  
安宇植『評伝金史良』草風館、1983  
安宇植『金史良』その抵抗の生涯』岩波新書、1972

- 呉智泳著・梶村秀樹訳注『東学史―朝鮮民衆運動の記録』東洋文庫、1970  
 李淑子『教科書に描かれた朝鮮と日本』ほるぷ出版、1985  
 イ・ヨンスク『国語という思想』岩波書店、1996  
 任展慧『日本における朝鮮人の文学の歴史』法政大学出版局、1994  
 韓晰曦『日本の朝鮮支配と宗教政策』朝鮮近代史研究双書6、未来社、1988  
 池田浩士編『湯浅克衛植民地小説集』インパクト出版会、1995  
 磯貝治良『始源の光―在日朝鮮人文学論』創樹社、1979  
 井上収『宇垣一成論』日刊大陸、1935  
 伊藤亜人他3人『朝鮮を知る事典』平凡社、1986  
 今村与志雄『歴史と文学の諸相―朝鮮・ウトナム・中国』勁草書房、1976  
 岩波講座『近代日本と植民地6、抵抗と屈従』岩波書店、1993  
 岩波講座『近代日本と植民地7、文化のなかの植民地』岩波書店、1993  
 栄沢幸一『「大東亜共栄圏」の思想』講談社現代新書、1995  
 大村益夫・布袋敏博編『朝鮮文学関係日本語文献目録』非売品、1997  
 尾崎秀樹『近代文学の傷痕―旧植民地文学論』岩波書店同時代ライブラリー、  
 1991  
 鎌田澤一郎『朝鮮は起ち上る』千倉書房、1933  
 鎌田澤一郎『宇垣一成』中央公論社、1937  
 柄谷行人『「戦前」の思考』文芸春秋、1994  
 川崎延寿『煙草専売法規解説』株式会社帝國地方行政学会朝鮮本部、1937  
 川村湊『南洋・樺太の日本文学』筑摩書房、1994  
 川村湊『異郷の昭和文学』岩波書店、1990  
 川村湊『満州崩壊』文芸春秋、1997  
 木村一信『中島敦論』双文出版社、1986  
 黒川創編『「外地」の日本語文学選1、南方・南洋／台湾』新宿書房、1996  
 黒川創編『「外地」の日本語文学選2、満州・内蒙古／樺太』新宿書房、1996  
 6  
 黒川創編『「外地」の日本語文学選3、朝鮮』新宿書房、1996  
 京城府『京城府史』第2巻、湘南堂書店（複製版）、1982  
 京城保護観察所『保護観察制度の概要』、1941  
 元山府『日本の商港元山』、1926  
 国史編纂委員会『韓国独立運動史4』正音文化社、1968  
 小林英夫『「大東亜共栄圏」の形成と崩壊』御茶の水書房、1975  
 酒井政之助『発展せる水原』私家版、1914  
 酒井政之助『水原』私家版、1923

- 鷲只雄『中島敦論―「狼疾」の方法』有精堂、1990  
 櫻本富雄『日本文学報国会―大東亜戦争下の文学者たち』青木書店、1995  
 佐々木充『中島敦の文学』楓風社、1976  
 白川豊『植民地期朝鮮の作家と日本』大学教育出版、1995  
 水原市『水原市史』水原市史編纂委員会、1986  
 関豊作『不世出の英雄 朝鮮総督宇垣一成』新聞解放社、1931  
 清津商工会議所編『清津と後方商勢圏及付録』、1934  
 『占領と文学』編集委員会編『占領と文学』オリジン出版センター、1993  
 高井有一『立原有一』新潮社、1991  
 高崎隆治『文学の中の朝鮮人像』青弓社、1982  
 田鍋幸信編『写真資料中島敦』創林社、1981  
 田鍋幸信編『中島敦・光と影』有精堂、1989  
 長璋吉『朝鮮・言葉・人間』河出書房新社、1989  
 朝鮮総督府学務局社会課『色服と断髪』社会教化資料第2集、1933  
 朝鮮総督府『朝鮮総督府施政年報』、1933  
 朝鮮総督府『朝鮮総督府施政年報』、1935  
 朝鮮総督府『朝鮮総督府施政年報』、1937  
 朝鮮総督府『伸び行く朝鮮―宇垣総督演説集』、1935  
 朝鮮総督府『朝鮮年鑑』、1935  
 朝鮮総督府『朝鮮』心田開発特輯号、1936  
 朝鮮総督府専売局『煙草専売取締関係例規』、1924  
 朝鮮総督府編『朝鮮事情』、1942  
 朝鮮総督府編纂『朝鮮要覧昭和2年』、1926  
 津川泉『JODK消えたコールサイン』白水社、1993  
 鶴見俊輔『戦時期日本の精神史』岩波書店、1982  
 東洋拓殖株式会社『東洋拓殖株式会社三十年』、1939  
 東洋拓殖株式会社『植民統計第一報』、1911  
 独立運動史編纂委員会『独立運動史』第八卷、1980  
 『中島敦研究』筑摩書房、1978  
 榎崎勤『作家の舞台裏』読売新聞社、1970  
 日本社会文学会編『植民地と文学』オリジン出版センター、1993  
 梁村奇智城『心田開発』朝鮮研究社、1937  
 平岡敏夫『日本近代文学の出發』塙新書、1992  
 堀内敬三『日本の軍歌』日本音楽雑誌株式会社、1944・4

- 前田愛『都市空間のなかの文学』筑摩書房、1982
- 三浦悦郎『生氣躍動する産業朝鮮』日本評論社、1934
- 三浦雅士『身体の零度』講談社選書メチエ、1996
- 南雲智編『「緑旗」総目録・著者名別索引』汲古書院、1996
- 宮嶋博史『両班―李朝社会の特権階層』中公新書、1995
- 宮田節子『朝鮮民衆と「皇民化」政策』朝鮮近代史研究双書2、未来社、1985
- 5
- 宮田節子編・概説『朝鮮軍概要史』十五年戦争極秘資料州15、不二出版、1989
- 8 9
- 宮田節子編・解説『高等外事月報』十五年戦争極秘資料集6、不二出版、1988
- 8
- 宮田節子・金英達・梁泰昊『創氏改名』明日書店、1992
- 村山智順『朝鮮の類似宗教』国書刊行会、1972
- 村山智順『朝鮮の占トと予言』国書刊行会、1972
- 山辺健太郎『日本統治下の朝鮮』岩波新書、1971
- 緑旗日本文化研究所編『誰にもわかる氏の解説』、1940
- 緑旗連盟編『大和塾日記』興亜文化出版株式会社、1944
- 林鐘国著・大村益夫訳『親日文学論』高麗書林、1976
- 渡辺豊日子口述『朝鮮総督府回顧談』財団法人友邦協会、1984
- △論文とその他▽
- 韓国語
- 金大観「邪教白々教事件の正体」(『朝光』、1937.6)
- 金文輯「内鮮一体具現の方法―「朝鮮民族」の発展的解消論序説― 上古への帰還」(『朝光』、1939.9)
- 金承寿「白々教と府議政」(『朝光』、1940.10)
- 呉養鎬「李石薰論」(『詩文学』、1979.2)
- 李石薰「JODK」(『朝光』、1935.12)
- 印貞植「内鮮一体の文化的理念」(『人文評論』、1939.1)
- 林和「東京文壇と朝鮮文壇」(『人文評論』、1940.6)
- 蔡廷根「白々教事件公判傍聴記」(『朝光』、1940.5)

- 金達寿「日本文学のなかの朝鮮人」(『文学』、1959.1)  
 金達寿「在日朝鮮人作家と作品」(『文学』、1959.2)  
 金達寿「太平洋戦争下の朝鮮文学」金鐘漢の思い出を中心に(『文学』、1961.8)  
 金達寿「金史良・人と作品」(『金史良作品集』理論社、1972.4)  
 金達寿「戦死した金史良」(『新日本文学』、1952.12)  
 金石範「金史良について」―ことばの側面から―(『文学』、1972.2)  
 金石範「在日朝鮮人文学」(岩波講座『文学』第二卷、1976)  
 金時明「農民精神培養に注力」―江原道洪川農民訓練所―(『朝鮮』、1936.4)  
 朴春日「近代朝鮮文学における抵抗と屈従」(『日本文学』、1961.10)  
 朴春日「日本における朝鮮文学の歴史的意義とその諸問題」(『日本文学誌要』復刊1号、1957.12)  
 白鐵「朝鮮の作家と批評家」(『文芸』、1940.7)  
 辛兌鉉「朝鮮姓氏の起源」―在来式姓と支那式姓―(『朝鮮』、1940.2)  
 安宇植「金史良・「滅ぶものへの哀愁」考」(『季刊三千里』、1979.冬)  
 安宇植「民族作家の位相」―金史良試論―(『文芸』1971.5)  
 梁禮先「研究動向湯浅克衛」(『昭和文学研究』、1994.7)  
 柳基斗「朝鮮問題の行方」(『中央公論』臨時増刊、1934.4)  
 兪鎮午「主題から見た朝鮮の国民文学」(『朝鮮』、1942.10)  
 李光洙「朝鮮の文学」(『改造』、1932.6)  
 李石薫「転換期の朝鮮文学」(『緑旗』、1941.12)  
 李恢成「作家は生きつづける」(『文芸』、1971.5)  
 任展慧「朝鮮側から見た日本文壇の「朝鮮ブーム」」(『海峡』12号、1984.3)  
 任展慧「朝鮮時代の田中英光」(『海峡』3号、1975.12)  
 任展慧「植民者二世の文学」―湯浅克衛への疑問―(『季刊三千里』、1976.春)  
 任展慧「張赫宙論」(『文芸』、1965.11)  
 林和「現代朝鮮文学の環境」(『文芸』、1940.7)  
 張赫宙「現代朝鮮作家の素描」(『文学案内』、1937.2)  
 張赫宙「私の小説勉強」(『文芸』、1939.11)  
 張赫宙「朝鮮文壇の将来」(『文学案内』、1935.11)

- 張赫宙「朝鮮文壇の作家と作品」(『文学案内』、1936.6)
- 張赫宙「朝鮮文壇の現状報告」(『文学案内』、1935.10)
- 張赫宙「朝鮮の知識人に訴ふ」(『三千里』、1939.4)
- 鄭僑源「内鮮一体」の倫理的意義」(『朝鮮』1939.10)
- 秋錫敏「酔いどれ船」論 | 田中英光と坂本享吉を中心に | (『湘南文学』1991.3)
- 春園生「内鮮一体と朝鮮文学」(『朝鮮』、1940.3)
- 池内輝雄「戦争と文学」(岩波講座『日本文学史』第12巻、『二十世紀の文学』、1996)
- 池島信平「日本を離れて想うこと」(『中央公論』、1958.7)
- 磯貝治良「在日朝鮮人文学の世界 | 負性を越える文学」(『季刊三千里』、1979.冬)
- 池田浩士「湯浅克衛の^外地v」(『インパクション』80号、1993)
- 池田浩士「湯浅克衛の^外地v | その二」(『インパクション』81号、1993)
- 伊藤公久「田中英光と戦中・戦後 | 植民地朝鮮と戦地体験 | (『湘南文学』、1996.3)
- 彙報「内地式氏の設定に就き総督談」(『朝鮮』、1939.12)
- 大村益夫「第二次世界大戦下における朝鮮の文化状況」(『社会科学討究』43号、1970.3)
- 大村益夫「奪われし野の奪われぬ心 | 解放前の朝鮮近代文学 | (『文学』、1970.11)
- 奥田仙三「内鮮一体と内地式改姓」(『朝鮮』、1939.8)
- 小田実「ある否定しがたい力 | 金史良「郷愁」」(『文芸』、1979.1、2月合併号)
- 梶井陟「在日朝鮮人文学の作品年譜」(『季刊三千里』、1979.冬)
- 梶井陟「日本における朝鮮近・現代小説(戯曲を含む)の作家別翻訳作品年譜」(『富山大学文学部紀要』8号、1984年)
- 梶井陟「現代朝鮮文学への日本人の対応 | 翻訳の対応とその問題点」(『富山大学文学部紀要』5号、1981年)
- 梶井陟「現代朝鮮文学への日本人の対応(2) | 「朝鮮」特輯と文学(1910-1945)」(『富山大学文学部紀要』6号、1982年)
- 梶井陟「雑誌『朝鮮』ならびに『朝鮮及満州』における朝鮮文学の位置」(富山大学文学部紀要』7号、1983年)
- 勝又浩「中島敦の出發」(『文学・語学』、1966.12)

- 金子和「現代小説に映じた朝鮮的現実——張赫宙論——」(『文学評論』、1936.1)
- 金子和「張赫宙論——現代小説に映じた朝鮮的現実(2)——」(『文学評論』、1936.2)
- 川村研二「朝鮮と『国民文学』」(『昭和文学研究』第25集、1992.9)
- 川村湊「△酔いどれ船▽の青春——もうひとつの戦中・戦後」(『群像』、1986.8)
- 川村湊「植民地文学研究の現状」(『社会文学』9巻7号、1995)
- 座談会「文学と民族」(金時鐘、金達寿、安岡章太郎)(『文芸』、1971.5)
- 座談会「新しい半島文壇の構想」(『緑旗』、1942.4)
- 座談会「軍人と作家——徴兵の感激を語る」(『国民文学』、1942.7)
- 座談会「帰還勇士と文人」(『緑旗』、1942.1)
- 座談会「今日の半島文学」(『緑旗』、1943.5)
- 座談会「朝鮮文学の将来」(兪鎮午、張赫宙)(『文芸』、1942.2)
- 座談会「朝鮮文化の将来」(『文学界』、1939.1)
- 沢開進「雑誌「堤防」をつくった頃——思い出の金史良君——」(『文芸』、1971.5)
- 沢開進「金史良の学生時代」(『図書』、1972.4)
- 白川豊「佐賀高等学校時代の金史良」(『朝鮮学報』第147集、1993.4)
- 白川豊「張赫宙の日本語小説考(1930—1945)」(『史淵』九州大学、124集、1987.3)
- 資料紹介「『国民文学』総目次」(『朱夏』5号、1993.6)
- 新潮評論「内鮮文学の一体化について」(『新潮』、1941.5)
- 高崎宗司「緑旗連盟と「皇民化」運動」(『季刊三千里』、1982.秋)
- 高崎宗司「文学者にとって朝鮮とは」(『季刊三千里』、1975.秋)
- 高崎隆治「日本人文学者のとらえた朝鮮」(『季刊三千里』1980.春)
- 竹内実「「内鮮一体」の小説」(『文学』、1970.11)
- 田中英光「国民文学の感想」(『朝光』、1942.5)
- 田中英光「半島作家への手紙」(『緑旗』、1942.5)
- 田中英光「朝鮮の作家」(『新潮』、1943.2)
- 田中英光「十二月八日の感激」(『朝光』、1942.12)
- 田中英光「朝鮮を去る日に」(『海峡』△資料▽、1975.12)
- 津田剛「転機の朝鮮文壇」(『朝鮮』、1940.1)
- 鶴見俊輔「朝鮮人の登場する小説」(『文学理論の研究』岩波書店、1967.

- 「内外地一体化の親族相続法確立」(『朝鮮公論』、1939.7)  
 中野重治「蒙徳寺の縁側で」(『文芸』、1971.5)  
 中山和子「植民地末期の朝鮮文壇と日本語文学(一)」(『文芸研究』明治大学文学部紀要69号、1993.3)  
 西村賢太「研究動向田中英光」(『昭和文学研究』、1995.2)  
 濱川勝彦「中島敦序論——初期作品を中心に——」(『国語国文』、1969.4)  
 林浩治「張赫宙論」(『季刊三千里』、1983.冬)  
 林房雄「朝鮮の精神」(『文芸』、1940.7)  
 平野謙「日本文学報国会の成立」(『文学』、1961.5)  
 藤間生大「ある詩人の生涯(上)(下)」(『日本文学』、1954.6-7)  
 牧洋「徴兵・国語・日本精神」(『朝光』、1942.7)  
 牧洋「聖地巡拝録」(『国民文学』、1942.3)  
 牧洋「金鐘漢の人及作品」(『国民文学』、1944.1)  
 牧洋「どじょうと詩人」(『文化朝鮮』、1942.5)  
 三枝壽勝「一九四〇年代前半期の小説について」(『朝鮮学報』第86号、1978.1)  
 南次郎「内鮮一体の強調」(『文芸春秋』臨時増刊22号、1939.7)  
 宮田節子「朝鮮における「農村振興運動」——1930年代日本ファシズムの朝鮮における展開」(『季刊現代史』第2号、1973.5)  
 村山知義「朝鮮文学に就て」(『文学界』、1940.5)  
 保高德蔵「民族的苦悩の文学」(『東京新聞』、1952.3.25)  
 保高德蔵「日本で活躍した二人の作家」(『民主朝鮮』、1946.7)  
 保高みさ子「金史良の愛国心」(『文芸』、1971.5)  
 安田幹太「朝鮮に於ける家族制度の変遷」(『朝鮮』、1940.1)  
 山下真史「中島敦『虎狩』論」(『国語と国文学』、1987.9)  
 湯浅克衛「朝鮮を扱った日本の小説と日本に紹介された朝鮮文学」(『花郎』、1953.秋)  
 湯浅克衛「戦ふ朝鮮作家たち」(『新潮』、1944.10)  
 湯浅克衛「時代がどんなに作品を決定してゐるか」(『国文学解釈と鑑賞』、1952.2)  
 1 欄木寿男「山梨半造朝鮮総督の「普通教育拡張案」」(『海峡』1号、1974.2)



4 和泉あき編「戦争下の文化・文学関係統制とその反応」(『文学』、1958.)